

「紙パックリサイクル年次報告書2017」 発行にあたって

日ごろは、全国牛乳容器環境協議会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

紙面から恐縮ではありますが、厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災から まもなく6年が経過し、被災地の復興、原発事故の修復、停止した原発の再稼働をはじめとするエネルギー確保などの国家課題がある中、産業界では為替変動の影響を受け、昨年ほどの好況感を実感できない情勢となっており、再び先行きが見通しにくくなっている昨今かと存じます。

2008年に完全施行された 改正容器包装リサイクル法(以下、容リ法)は、2013年に見直し作業が開始され、昨年5月によりやく『容器包装リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書』として取りまとめられ、見直し作業が終了しました。いくつかの課題提示はあったものの紙パックに特化した懸案等はなく、容器包装リサイクル制度上はひとまず現状継続との結論が出されたと判断しています。

それらの経過如何にかかわらず 私たちは「一人ひとりが環境を考え、行動していく社会」を目指して、紙パックリサイクルの普及・拡大に向けた取組みを続けていかなければなりません。

紙パックリサイクルの指標である紙パック回収率は、調査開始以来 順調に向上してまいりました。しかし、ここ数年は伸び悩み傾向となり、この度 2015年度データは、前年度を下回る実績となっています。

回収率を高める対応として わたしたちは、各委員会制度の運営充実と所属する専門委員の力を高める活動に注力してまいりました。総務委員会では、自治体の環境担当部署を訪問し、より効果的な広報活動や回収の仕組みづくりに向けた意見交換、消費者啓発のための協働取組などを行っています。広報委員会では、ホームページの改修に継続して取組み、また展示用パネルの内容充実を図っています。イベント委員会では、6月エコライフ・フェア、12月エコプロへの出展、地域の大規模量販店々頭における紙パックリサイクルイベントなどにより、多くの市民の皆さまに直接、回収の呼びかけを行っています。

また、自治体との連携による紙パックリサイクル講習会、全国の小学校への出前授業も継続開催して、小学生の環境教育の中で「大事な紙資源、もったいない」を学習できる機会としています。支部組織委員会では、全国の当



全国牛乳容器環境協議会

会長

青山 和夫

会々員が関わる地域の環境イベントにおいて、来場者に紙パックリサイクルを啓発するための展示・クイズパネル等を利用いただける体制を整えた結果、恒例行事として定着したイベント件数が増えています。

ミルク段ボールで作った紙パック回収ボックスは、累計で23,000個を超える配布実績となりました。

その他の取組のご紹介を含め、1年間の活動内容を総括して「紙パックリサイクル年次報告書2017」をここにまとめましたので、ぜひお目通しいただき、ご意見・ご指導をお寄せいただければ幸いです。

誠に残念ながら 2015年度実績値は、目標としていた紙パック回収率 50%以上を達成できませんでしたが、次の5年間に向けては、まだまだ集計しきれていない回収ルートを発掘・集計することや、雑がみに混ざって排出されている紙パックの扱い方、まな板や廃油入れなどに別利用されている割合調査などにも取組み、より実態に即した回収率把握に努める所存です。

市民団体の 全国牛乳パックの再利用を考える連絡会様をはじめとした、さまざまなステークホルダーの皆さまとの協働も進めてまいります。会員の皆さまにおかれましても、今までも増して 更なるお力添えを賜りますよう、よろしく申し上げます。

回収率向上アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会(以下、容環協)では、「2015年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パックの回収率向上を目指してきましたが、目標の達成ができませんでした。そこで、これまでの取組を見直す中で、再度「回収率50%以上」を目標に定め、回収率向上にむけて活動を継続しております。

【目標】
紙パック回収率 **50%以上**
2020年度

- 自然の恵みを大切に、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進します。
- 再生可能な資源である紙パックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開します。

【主な取組】

1. 回収率を高める場づくり
 - ① ステークホルダー会議などの充実
 - ② 地域特性に応じた地域会議の開催とフォロー
 - ③ 地域の環境活動(紙パックリサイクル講習会の開催(全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(以下、全

2. 様々な生活の場における回収促進
 - ① 生活の場に根ざした回収力向上(紙パック回収ボックスの提供、環境メッセージ広告を紙パック商品に掲載する環境キャンペーンの実施、工場見学者に対する紙パックリサイクル啓発の実施)
 - ② 牛乳1000ml以外(500ml、200mlなど)の回収促進
 - ③ 紙パックとしての分別の促進
 - ④ 再活用から資源価値の高い再生紙へ
 - ⑤ 屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進
3. 教育や学習の場における活動の促進
 - ① 教育・学習とリサイクルの協調(小学校での牛乳パックリサイクル出前授業の開催(全国パック連と連携)・牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールへの協賛)
 - ② 学校給食用牛乳紙パック(以下、学乳パック)の回収率向上
4. コミュニケーションの充実
 - ① ステークホルダーとの対話と協調
 - ② 再生品の利用促進
 - ③ 様々なイベント等への参画
 - ④ インターネットなどによるコミュニケーション(容環協HP・牛乳パックン探検隊HP)
 - ⑤ 国際的連携の推進



CONTENTS

活動トピックス

- 「プラン2020」……………2
- 環の縁結びフォーラム……………3
- 紙パックリサイクル促進地域会議……………4
- 再生紙メーカー意見交換会……………5
- リサイクル促進意見交換会……………6
- 紙パックリサイクル講習会……………7
- 牛乳パックリサイクル出前授業……………8
- エコライフ・フェア／エコプロ2016……………10
- 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール……………11
- その他の活動……………12
- 海外調査……………13

活動報告ダイジェスト

- 2015年度 紙パック回収率……………14
- 2015年度 紙パックマテリアルフロー……………16

2016年度活動報告

- 小売事業者のリサイクル状況……………18
- 福祉事業所の回収状況……………19
- 市町村回収・集団回収の状況……………20
- 学校のリサイクル状況……………22
- 再生紙メーカーのリサイクル状況……………23
- 紙パックのリサイクル学……………24
- 紙パックを取り巻くダブル循環……………24
- 全国牛乳容器環境協議会の概要……………26
- あゆみ……………26
- 容環協の発行物……………28
- 会員一覧……………29

「プラン2020」 1年目取組状況

わ 環の縁結びフォーラム



「プラン2020」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

アクションプランに基づいて、4つの委員会で活動を推進してまいります。2016年の主な活動は以下のとおりです。

1. 総務委員会

(1) 回収力を高める場作り

2月には様々なステークホルダーと「リサイクル促進意見交換会」を行い、10月には名古屋市で「紙パックリサイクル促進地域会議in愛知」を開催しました。回収率向上に向けた取組事例の発表や、抱える問題の洗い出し、課題整理を行いました。

(2) 様々な生活の場における回収促進

他の古紙類に含まれる紙パックの把握に努めるために紙製容器包装リサイクル推進協議会と協働して組成分析調査を行いました。また、東京23区における回収実態を調査することも進めています。

新たな取組として、ライフサイクルを踏まえた様々な生活の場に注目し回収促進活動を推進しています。

(3) 教育や学習の場における活動の促進

学乳パック回収未実施エリアを調べ、回収の働きかけを行っています。

(4) コミュニケーションの充実

北米視察を行いました。紙パック原紙メーカーや、リサイクル施設での情報交換を行い、紙パックの環境特性について改めて知見を深めました。

2. 広報委員会

(1) 普及啓発事業

① ホームページの拡充

ホームページの内容を充実させることを目的に、「森林管理」、「紙パックとリサイクル法」の二つのコンテンツを全面的に改訂いたしました。

② 環境パネルの改訂

全面的に見直し、わかりやすい5枚組の構成にいたしました。紙パックだけをまとめて回収拠点へ出すように説明しています。

③「ひと目でわかる 紙パックリサイクルほんとはなし」を発行しました。

全国パック連と協力してA4版8ページの「紙パックリサイクルほんとはなし」をB5版4ページのコンパクトなものにいたしました。

④ 年次報告書2017の企画・編集に取り組みました。

(2) 回収促進事業

① 総務委員会と協力して作成した回収ボックス1/2サイズを多摩市のコンビニエンスストアなど4か所に設置いただきました。

3. イベント委員会

(1) 紙パックリサイクルを活用した環境教育と普及啓発

① 全国パック連と連携して小学校9校で出前授業を開催、全国パック連・平井代表の講義や手すきはがきづくりを通して、計664名の生徒に環境教育を実施しました。また、同様に自治体や店舗6か所でリサイクル講習会を開催しました。

② エコライフ・フェア2016、エコプロ2016など地域環境フェアに出展しました。

(2) 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール

応募の少なかった4県の小学校全校にDMを送り参加を促す等、裾野拡大に努めました。

4. 支部組織委員会

(1) 地域の環境活動などへの積極的参加と支援

① 容環協会の地域事業所が容環協の各種パネルや冊子などを使用して独自に紙パックリサイクル促進の啓発活動を実施し、また、自治体などの地域の環境活動にも積極的に参加しました。

② 自治体や地域の乳業協会などと連携し、啓発ツールの貸出や再生品トイレトペーパーの提供を行いました。クイズの回答用紙の裏面でアンケートを実施し、今後の取組の参考としています。

③ 簡単にポイントを伝えられると好評のクイズパネルは追加制作し、持ち運びに優れたタペストリータイプも新規制作しました。

(2) メールマガジンの発行

① 特色のある地域の取組を掲載し他地域への水平展開をはかり、委員会の支援ツールについても情報発信し活用を進めました。

② 地域会議に参加いただいた自治体の方などにお送りすることとし、配信先を拡大しています。

自治体、福祉事業所、関連企業などが 参加し、牛乳パックのリサイクルに関わる福祉 事業所の取組や事例が報告されました。

【環の縁結びフォーラム】11月1日

全国パック連が主催、容環協が協賛する「環の縁結びフォーラム」及び全体交流会が、TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて開催されました。今回のテーマは「求められる飲料用紙パックのあり方とそのリサイクル適性について」で、国、自治体、NPO、関連企業など延べ69名の方々が参加しました。

主催者挨拶として全国パック連・平井代表より、今年6月にヨーロッパ、9月に北米を視察し、日本のみならず国際市場においても紙パックの形状が変わってきたことを実感し、紙パックメーカーと中身メーカーを交えたパネルディスカッションで世界に誇れる現在のリサイクルシステムを守りつつ、今後どのように発展させていくかについて皆様と共に考える機会としたい、と開催主旨説明がありました。また、容環協・青山会長から、2016年4月に新たに策定した行動計画「プラン2020」に従い、①回収率を高める、②紙パックの環境特性を正しく伝える、③環境を考え行動する人々を増やす、という3つの活動に努めていることなどの説明がありました。

パネルディスカッションでは、ダイナックス都市環境研究所・山本代表取締役をモデレーターに、日本製紙、凸

版印刷、大日本印刷、日本テトラパック、雪印メグミルクの各社パネラーによる事業活動の紹介のほか、平井代表からヨーロッパ及び北米のリサイクル状況の視察報告があり、環境省の方からは、容り法見直し審議に関連してこうした会で課題が明確になり、改善を進めていければ良いとの意見をいただきました。

質疑応答では、便利で衛生的なキャップ付きなど、新しい形状の紙パックに対する消費者の要求が高くなってきており、メーカーが紙パックをリサイクルしやすくする工夫に取り組んでいることの報告や、一方で利便性と引き替えに消費者もひと手間をかけて協力する必要がある、との意見もありました。再生紙メーカーからは、日本で回収された紙パックが輸出され、原料紙パックが不足する状況で、キャップ付き紙パックのリサイクル対応にも取り組まなければならないとの意見が出ました。

平井代表による閉会の挨拶では、今回のパネルディスカッションで様々な疑問点への回答が得られ、有意義であったことと、パネラー及び来場者への御礼の言葉とともに、紙パックリサイクルへの一層の協力要請がありました。続く全体交流会では、参加者の間で活発な情報交換が行われ、盛況のうちに散会となりました。



主催者挨拶 全国パック連 平井代表



パネルディスカッションの様子

紙パックリサイクル促進地域会議

再生紙メーカー意見交換会



各地域での情報交換を通じて、
リサイクルの促進を図る
地域会議を開催。

紙パックリサイクル促進地域会議
in 愛知／名古屋市

- ◆開催日 2016年10月21日
- ◆参加者 環境省、経産省、農水省、自治体、市民団体、乳業メーカー、容器メーカー、回収業者など計45名

【主な報告や問題提起】

- 来賓を代表して環境省の方より、容り法の見直しに関連して最近の経済産業省・環境省合同審議会の動きをご紹介いただき、リサイクル活動ではリサイクルの流れを消費者が理解することが動機付けとなるため事業者・自治体の連携が重要であるとお話や、環境省としては特に家庭から排出される食品廃棄物の減量を重要ととらえており、来年度は予算も十分に獲得して注力したいとお話がありました。
- 容環協より、今年度から取り組んでいる行動計画「プラン2020」の概要、50%を目指し活動している紙パック回収率の推移などの活動内容を紹介しました。
- 名古屋市の取組報告では、平成10年度にごみ処分量がほぼ100万トンに達して処分場があふれそうな状況を受け、平成11年2月に「ごみ非常事態宣言」を発令し、トリプル20（20世紀中に20%・20万トンの減量）を目標に活動を行った結果、平成10年度と平成27年度を



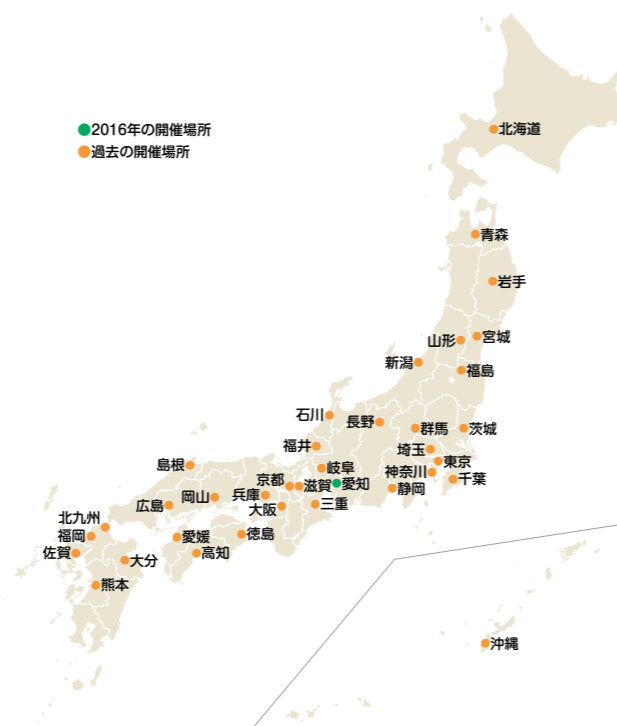
地域会議 in 愛知の様子

比較してごみ処分量は約40%減量し、資源分別量は約2倍、埋立処分量は約80%の減量に成功。また紙パックのリサイクル率が平成12年7月の28%から平成15年は48%まで向上したことが紹介されました。

- ユニー様からは、スーパーマーケットは環境負荷の大きな業態のため、持続可能な社会を目指して環境活動や教育に取り組んでおり、紙パックのリサイクル商品の販売にも力をいれているとの紹介がありました。
- 意見交換では、県下で原単位の高かった犬山市、日進市の資源回収方法を中心に3Rの取組状況の報告があり、その他にも古紙回収業者、調査会社から古紙回収業者独自の回収方法の状況報告、出席の各自治体の取組状況報告や問題提起がありました。

最後に、リサイクル率向上のためにはリサイクルの流れ、結果を市民に理解してもらうことが重要であること、また紙パックリサイクルが現在の容器包装リサイクルの基本ルールを確立したことを再確認し、引き続き市民の啓発活動に容環協を活用していただくことをお願いして閉会となりました。

地域会議の開催場所



紙パックリサイクルの
現状と課題が
明らかになりました。

【再生紙メーカーとの意見交換会】7月13日

全国パック連との協働で、静岡県富士市の『ふじさんめっせ』会議室にて、再生紙メーカーとの意見交換会を開催しました。当日は、再生紙メーカー、古紙回収業者34名が出席しました。

最初に容環協から、今年度からの5年間の活動指針「プラン2020」を作りスタートしたこと、また容り法の見直しにより行われた第18回合同審議に関する対応状況の報告がありました。また、雑がみを回収する自治体が増えるほどカウントできなくなる紙パックの量が増えて深刻な状況の中、2020年度までに回収率50%を達成するという目標を改めて認識していきたいとの話がありました。

続いて「ヨーロッパの紙パックリサイクル事情」の報告として日本テトラパックより、EUにおける回収率、再資源化などの基準の決定方法、加盟国の目標設定方法等の紹介がありました。全国パック連・平井代表からは、ヨーロッパでは洗ってリサイクルする習慣がなく、リサイクル現場の環境が良くないことなどの紹介のほか、ヨーロッパの市場を見ても、リサイクルにあたって容器包装はシンプルなもの

が良いが、使いやすさも検討しなければならず、市場で増加しているプラスチック／紙複合容器についても容器メーカーと意見交換を進めていきたいとの話がありました。

意見交換では、各再生紙メーカーから、回収量・入荷量の減少が顕著なため入手ルートのシフト等で対応していること、一方で海外市況の悪化を受けて輸出が激減し、西を中心に回収紙パックが流れてきていることの紹介がありました。また容環協の取組として、新たに回収しても引き取りルートがわからないという団体からの問い合わせがあり、ルート紹介のための情報整理の必要性を実感しているとの話がありました。その他、自治体へのヒアリングで、消費者の世帯単位の変化がリサイクルにも影響を与えているのではないかと指摘があった、という話題提供もありました。

最後に、容環協の容器メーカー、乳業メーカーからリサイクルに関する社内の取組について紹介があり、出席者がリサイクルの重要性を再認識したところで閉会となりました。



意見交換会の様子



会場のふじさんめっせ

リサイクル促進意見交換会

紙パックリサイクル講習会



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第28回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2月4日、東京・九段下の乳業会館にて、経産省リサイクル推進課、紙業服飾品課、農水省食品産業環境対策室、自治体関係者、市民団体、NPO団体等計58名の方の出席のもと、飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会を開催しました。

はじめに岸田会長(当時)から紙パックリサイクルが始まった経緯、容環協が飲料用紙パックリサイクル行動計画「プラン2020」を策定し、これに基づいてリサイクルが継続的に発展するように活動していると挨拶がありました。続いて農水省の方から、容器のリデュースが重要であることを消費者の方々に理解していただくことの困難さ・重要さから、循環型社会という考え方の普及が大事であるとの挨拶があり、経産省の方からは、来年度からの古紙利用率目標を65%にするということで、皆様の意見を聞いて4月から施行したいので引き続きリサイクルの推進活動を期待する、との挨拶をいただきました。

取組状況報告として容環協から、回収率を高める、環境特性を正しく伝える、環境を考え行動する人を増やすという3つの目的を通じて、環境負荷が少ない社会、一人ひとりが環境を考え行動する社会の実現に向けて行動・活動していくことが「プラン2015」であるとの説明があり、その後4つ

の委員会の各委員長から活動報告をしました。(株)エコイブスより、調査結果として、2014年度の飲料用紙パックの回収率が44.7%で0.1%増加していること、使用済み紙パックの回収率も確実に上昇していること、また市町村回収や集団回収の取引価格が上昇していること等の報告がありました。

意見交換では再生紙メーカーから、回収率は上がっていますが、そもそも製品販売量の減少もあり使用済み紙パックの入荷量は上がらず、取引先に対して「再生紙100%のティッシュペーパー」等の表示を外して代替材をいつでも配合できる体制をとってもらわざるを得ない状況になってきている、との話がありました。また調査結果のマテリアルフローで見ても、未回収分は可燃ごみに混入してしまっているのか、輸出されているのかと見えがた、雑がみなど他の古紙への混入も年々ひどくなっていて、調査の数字と実態が噛み合っていない印象を持っているという意見もあり、市民団体代表からも雑がみ、可燃ごみへの混入は問題であり、自治体へのPRと住民への啓発が更に必要であるとの意見が出るなど、多くの問題提起がなされました。

最後に容環協から、昨年度からの前進を目標に今日の会に出席したが、もう一步踏み込めなかったのが、席上提起された問題について、雑がみの解決策を中心に分別という原点に立ち返り、更に回収率向上に向けて取り組んでいきたい、と話があり閉会しました。

現状を知っていただき、
実際にリサイクルを体験する
楽しい講習会です。

紙パックリサイクルの現状や、紙の原料となる森林の管理状況を説明するとともに、回収ルールの体験を通して牛乳パックの回収に関心を持っていただくため、「牛乳パックリサイクル講習会」を毎年開催しています。

リサイクル講習会講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
「牛乳パック手開き」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

【相模原市】7月29日

今年も橋本台リサイクルスクエアで行われた講習会には、小学生と未就学児、その保護者の合計47名が参加しました。子どもたちは、全国パック連・平井代表のリサイクル活動のはじまりやその後の広がりなどの話を真剣に聞いていました。また、市の資源リサイクルのイメージキャラクターの一人「シゲンジャー ペーパーピンク」から体験教室の修了証と記念品を受け取るなど、講習会は盛況のうちに終了しました。



牛乳パック手開き体験の様子

【西東京市】8月9日

西東京市が開催した夏休み自由研究の企画で、全国パック連と連携して講習会を実施しました。猛暑の中、小学生46名と保護者20名が参加。講義では日本の牛乳パックリサイクル状況についてクイズなどを交えて学び、手すきはがきづくりでは牛乳パックのパルプの綺麗さに驚きながら「世界で1枚の手すきはがき」にチャレンジし、全員が自分のイメージに合わせて工夫しながら完成させました。



「世界で1枚の手すきはがき」にチャレンジ!

【野田市】10月15日

野田市が毎年古本市、フリーマーケットなどを開催している「野田市リサイクルフェア」の一環で講習会を行い、市民14名、市役所職員5名の計19名が参加しました。大人中心の講習会でメモを取られる参加者が多く、リサイクルに関する意識の高さが見受けられました。紙すき体験では大人の方も和気藹々と楽しく取り組まれており、市役所職員の方も含め、「世界で1枚のオリジナル手すきはがき」を完成させました。



平井代表による講義



主催者挨拶 容環協 岸田会長(当時)



ステークホルダーの方々

牛乳パックリサイクル出前授業



子どもたちの学びの場に。
毎年好評の「出前授業」を
全国の小学校で開催。

2016年も全国の小学校で、全国パック連と連携して「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

出前授業講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

【大阪府 貝塚市立中央小学校】2015年12月22日

貝塚市立中央小学校での出前授業は、4年生4クラスの大人数での実施となりました。大阪っらしく元気で人懐っこい児童が多く、説明や質疑応答の際に積極的に発言するなど、学習に前向きな姿勢がうかがえました。手すきはがきづくりでは、季節に合わせてクリスマスをモチーフにした作品を制作しました。(4年生156名受講)



楽しみながらはがきを作っています

【埼玉県 越谷市立大袋東小学校】6月18日

越谷市立大袋東小学校のエコフェスティバルに19の団体と16グループの児童が参加し、容環協と全国パック連は4グループを担当しました。児童たちは紙パックのポリはがしや手すきはがきづくりの説明に興味津々でした。手開きした給食の牛乳パックが乾かしてある教室もあり、リサイクル意識の高さがうかがえました。(全学年147名受講)



紙パックポリはがしの体験

【愛知県 岡崎市立山中小学校】7月12日

明治13年創立の歴史ある山中小学校で行われた出前授業は、学校スローガンの「えがおいっぱい」そのままの元気な児童が出迎えてくれました。全国パック連・平井代表の講義の後の「手すきはがきづくり」では、梅雨空で大変蒸し暑い日でしたが、お花や団扇などの絵柄で夏らしい涼しげなオリジナル手すきはがきを作りました。(4年生41名受講)



手すきはがき用 紙パルプの説明

【東京都 町田市立小山小学校】7月28日

相模原市と多摩丘陵の間に位置する小山小学校で、夏休みに開催された「すずやかサマースクール」の一環で出前授業を実施しました。児童は資源の大切さと紙パックリサイクルについて学習したあと手すきはがきづくりを体験。全国パック連・平井代表の講習会では皆が積極的に質問に答えるなど、関心の高さがうかがえました。(3年生以上13名受講)



手すきはがきづくり アイロンかけ体験

【東京都 青梅市立今井小学校】9月27日

今井小学校では4年生へのリサイクルに関する学習を1ヶ月ほど継続しており、その一環で、講義や手すきはがきづくりなどの出前授業を行いました。給食は瓶入り牛乳のため、学校で「洗って、開いて、乾かして」の実践はできませんが、継続したリサイクル学習により、家庭でのリサイクル意識の向上につながるものと思います。(4年生77名受講)



森林管理についてDVDで勉強中

【山梨県 南アルプス市立白根百田小学校】10月6日

富士山と八ヶ岳を望み、周囲には果樹園も多く自然豊かな環境にある白根百田小学校での出前授業。児童たちは牛乳パックリサイクルの発祥が地元山梨県と知り驚き、手すきはがきづくりでは、牛乳パックからできたパルプの白さにも驚いていました。リサイクルの大切さを学び、毎給食後の牛乳パックの「洗って、開いて、乾かして」を家庭でも実践しようと話し合っていました。(4年生60名受講)



手すきはがきづくりの様子

【福岡県 北九州市立天籟寺小学校】11月8日

「心豊かで自ら学ぶたくましい子ども」を教育目標に掲げる天籟寺小学校で、公益財団法人北九州活性化協議会から3名参観のもと出前授業を行いました。児童たちはスライドと動画を交えた講義を受けた後、世界で1枚の手すきはがきづくりを体験。パネル・展示物のコーナーでは、パルプ・チップの現物などを実際に手にして学習しました。(5年生21名受講)



平井代表による授業の様子

【佐賀県 佐賀市立若楠小学校】11月9日

佐賀市では環境にやさしい学校づくりを目標に、学校版環境ISO制度を設けており、市内の全小中学校がその認定を取得しています。若楠小学校でも環境学習やごみの集団回収を実施していますが、過去に牛乳パックが紙ごみと混ざって回収されたことがあったため、それを例にして正しい出し方を伝えることができるなど、意義のある授業になりました。(3年生49名受講)



児童の質問に答える容環協スタッフ

【神奈川県 横浜市立綱島小学校】11月24日

11月としては54年ぶりの雪となった日、寒さに負けない明るく元気な児童が参加。学校の授業では手こずった手すきはがきづくりに改めて取り組み、世界で1枚のオリジナルはがきを無事完成させました。学乳パックの「洗って 開いて 乾かして」が実践されているなど、学校のリサイクル意識の高さを感じました。(4年生3クラス100名受講)



世界で1枚のはがきを手に記念撮影



リサイクルの大切さを啓発。
紙パックの手開きや紙すきを
体験しました。

【エコライフ・フェア2016】6月4日、5日

環境省が中心となり、毎年6月の環境月間に東京・渋谷の代々木公園で開催されているエコライフ・フェア。今回で27回目となる本イベントに容環協は2007年から参加しており、今回で10回目の出展です。

ブースではクイズ・アンケート、使用済み紙パックを利用した小物づくり、手すきはがきづくりなどを実施。あいにく2日間とも不安定な天候でしたが大変活況で、全てのコーナーで前年を上回る延べ549名のお客様に参加いただきました。ワークショップでは、DVD「牛乳パックン探検隊」の視聴、紙パックリサイクルのクイズ、実際に飲み終えた容器の手開き体験などのイベントで楽しんでいただきました。参加された多くの方には紙パックリサイクルに興味を持っていただけたと実感しています。



テントブースの様子



ワークショップの様子

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロ2016】12月8日～10日

「エコプロ」は、1999年から開催されている日本最大級の環境展示会です。2016年で18回目の開催となり、容環協は今回も牛乳紙パック再利用マーク普及促進協議会と共同で出展しました。

展示会全体の来場者数は167,093名、そのうち1,905名が容環協ブースに足を運び実際にイベントに参加していただきました。ブースでは紙パックのリサイクルルールや仕組みを学ぶ「卓上型環境展示」や「もったいないものがたり」などの各種資料の配布に加え、「牛乳紙パック手開き体験」のワークショップ、また恒例となった全国紙パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」を行い、様々な展示や活動を通じて、紙パックのリサイクルへの理解と協力を広く訴える機会となりました。



卓上型環境展示での説明



ワークショップ風景

田尻 絢楓さんの作品
「田んぼの見張り番」
が見事最優秀賞に。

16回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2016」には全国の小学校より3,089作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品7点が選ばれました。おめでとうございます。

《受賞作品》

- ◆最優秀賞 『田んぼの見張り番』
田尻 絢楓さん(加古川市立加古川小学校3年)
- ◆優秀賞 『ドキドキ! ミルク式土器』
高田 悠里さん(習志野市立実習小学校6年)
- ◆優秀賞 『牛乳パックトイレ』
山崎 光将さん(平塚市立富士見小学校5年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『牛にゅうパックボール』
松澤 匡さん(川越市立霞ヶ関東小学校3年)
- ◆全国牛乳紙パックの再利用を考える連絡会賞
『牛にゅうパックでワンピース』
長村 磨侑さん(岐阜市立岐阜小学校5年)
- ◆日本乳業協会賞
『ぼくの太鼓』
田尻 大翔さん(加古川市立加古川小学校1年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『牛にゅうパックプラネタリウム』
伊藤 将汰さん(広島市立矢野小学校3年)



最優秀賞受賞の田尻 絢楓さん

最優秀賞は兵庫県の小学校3年田尻絢楓さんの作品「田んぼの見張り番」でした。おばあちゃんの田んぼでかかしを見て、雨に濡れても強い牛乳紙パックで作ることを思い付き、田んぼで目立つようにと色を工夫したり風を意識したデザインを考えるなど、実際に田んぼの見張り番として活躍できるようにと牛乳紙パックに新しい命を吹き込んでくれました。

受賞作の表彰式は「エコプロ2016」の容環協ブースにて12月10日に行われ、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員会の容環協・青山会長をはじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・盾・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学校向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞作品
「田んぼの見張り番」
田尻 絢楓さん



「エコプロ2016」容環協ブースで行われた表彰式

その他の活動

全国パック連との連携で
商業施設における啓発にも
取り組みました。

リサイクルキャンペーンの内容

- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・体験 牛乳飲んで「牛乳パック簡単手開き」
「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・パネル 「森林管理～原料パルプのすばらしさ
～紙パック回収とリサイクル」の流れ
- ・イベント 使用済み紙パック6枚とボックスティッシュ交換会

【商業施設「相模原市アリオ橋本」】3月19日

相模原市が主催する「相模原ごみDE71大作戦」の一環として、アリオ橋本で2013年以來のエコワークショップに共催しました。午前中は雨が降っているにもかかわらず多くの家族連れが訪れ、相模原市の分別戦隊シゲンジャー“ペーパーピンク”と“レモンちゃん”の登場で、会場の盛り上がりと共に活動を終えることができました。



愛嬌を振りまく、相模原市ごみ分別戦隊シゲンジャー“レモンちゃん”

【商業施設「川口市アリオ川口」】6月11日

川口市の後援のもと、アリオ川口で「みんなで、リサイクルを体験しよう!」と題し、紙パックリサイクルキャンペーンを開催しました。イベントに訪れた小学生が、学校で習得した手開き方法を自ら親御さんに教えている姿もあり、紙パックリサイクルの浸透につながる手ごたえを感じました。



牛乳パック手開き体験の様子

【商業施設「仙台市ララガーデン長町」】7月23・24日

4回目を迎えたララガーデン長町が主催する「牛乳パックリサイクル促進キャンペーン」に、2日間にわたって共催しました。今年は仙台市の後援のもと、ごみ減量キャンペーンキャラクター「ワケルくんファミリー」と容環協「牛乳パックン」との夢のコラボも実現し、紙パック原料パルプのすばらしさとリサイクルの重要性をお伝えしました。



手すきはがきづくりに挑戦中

海外調査

北米を調査訪問し、さまざまな
取組を確認できる大変有意義な
機会になりました。

【北米製紙メーカーとリサイクル処理施設視察】

第5回目となる海外調査は北米を訪問し、日本国内で流通している紙パックの原料となる森林の管理状況と原紙製造状況の視察、及び紙パックリサイクルの状況確認のための資源回収施設の訪問を行いました。

森林管理については、ウェアハウザー社で長い年月をかけて品種改良を重ねた種を用い、良質な土壌の地で育苗することにより根のしっかりとした苗として植林し、間伐等で管理しながら計画的な伐採につなげ、その後に再度植林をするということを繰り返すことにより、安定した木材供給につなげている生の現場を見ることが出来ました。伐採後の木材は主に建材としますが、使用できない余った部分を用いて、日本ダイナウェーブパッケージング社にてパルプ化から抄紙を行っていました。抄造後は1本が25トンと非常に大きなロールを小分けにし、紙の内外面にポリエチレンをコーティングして、飲料を詰めても漏れない紙容器用原紙が完成します。また、ライフサイクルアセスメント(LCA)の点からも年々改善がなされている状況も確認できました。日本国内では食の安全に対する品質要求は年々高まっていますが、そうした要求に応え、環境的にも配慮された原紙が製造される実態を確認出来ました。



育苗施設

一方、カリフォルニア州では、カートンカウンシル(アメリカの紙パックリサイクル推進団体)の支援を受けたSMaRT Station(民営のごみ処理施設)を訪問しました。日本では回収前に細かな分別を実施していますが、アメリカは一括して回収し、その後に分別する方式であり、文化の違いに大変驚きました。この施設でのリサイクル分別は大きく分けて、①リサイクルペーパー(新聞、包装容器、本、包装紙など)、②びん、プラスチック、アルミ容器(昨年より紙容器が追加)の2種類があり、カリフォルニア州各地に設置された回収BOXから運び込まれた回収資源を、まずは機械で選別し、その後に作業員による手選別で資源ごとに分類していました。リサイクル出来ないごみは埋め立て処理が主流です。大変な手間を掛けており、事前に分別する日本方式のメリットを大いに感じた次第です。



植樹年などを示す山林の標識



ごみから選別後の紙パック